

序

京都府立医科大学創立百周年記念式典が1972年11月3日、京都府立医科大学記念講堂において盛大に催されたことは私どもの記憶になお新しいところである。さらにこれを永く記念するため、記念会館の建設と京都府立医科大学百周年史刊行の二つの事業が計画された。百周年史刊行については編さんを主宰された三宅清雄教授を含めて11名の編さん委員各位の修史の事業に対する努力が絶えず続けられ、ここに漸く完結し、その発刊をみるにいたったことは誠に、ご同慶のいたりであり関係各位の真摯なご尽力に対し衷心より敬意と感謝の意を捧げたい。

時の先覚ある為政者により一般京都府民の浄財を中心として粟田口青蓮院における仮療病院の建設に始まる本学百年の歩みは本史に詳記されたところである。創設以後の本学の歩んだ道は決して平坦なものではなく、むしろ波乱に富んだもので幾多の危機に遭遇したのであったが、その足跡はわが国の近代医学史また医学教育史の貴重な一部を分担し華々しい今日の日本医学の推進に寄与したものである。このことは創立当時の各層の建学の精神と、これに対する不屈の努力が後進に伝えられ以後時代の変遷に伴い適切な処置がときどきの関係者により誤りなく講ぜられたことによる事実が、よくこの百周年史からもうかがわれる。温古知新のいわれのとおり、これが将来の本学前進の資料となることを信じて疑わない。

この百周年史の完成を機会に、京都府立医科大学創立百周年記念事業にご協力、ご援助頂いた各位に対し心からの感謝の意を表し、また改めて編さん委員の長期にわたるご努力に謝意を捧げるとともに栄光ある本学の今後の一層の発展を祈りたい。

1973年3月31日

京都府立医科大学学長

中 村 恒 男

